

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	4年次・後期・B群
	対象学科・専攻	電気電子工学科
ソフトウェア応用 (Applications of Software)	担当教員	前園正宜 (Maezono, Masaki)
	教員室	電気電子工学科棟1階(Tel. 42-9071)
	E-Mail	maezono@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習 / 履修単位 / 1単位	
週あたりの学習時間と回数	授業(100分) × 15回	
〔本科目の目標〕 卒業研究時や就職後も必要となる Microsoft Officeの各ソフトウェアの操作方法を身につけ、また、C言語プログラミングの応用として、Windowsアプリケーションの作成を体験する。		
〔本科目の位置付け〕 本科目で学ぶ各ソフトウェアの操作法は5年次の卒業研究における、データ処理、論文作成、発表資料作成の基礎となる。		
〔学習上の留意点〕 本科目はコンピュータを用いた演習が主であり、実際のコンピュータを操作し反応を得ることが理解を深める最も有効な学習手段である。学生諸君には積極的に課題に取り組む姿勢をもってもらいたい。疑問が生じた場合は直ちに質問し、理解を深めることを要望する。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. OSの基礎	2	・ オペレーティングシステム基礎を学び、その働きを理解できる。
2. Microsoft Wordの応用	4	・ 実験レポートや研究論文を Microsoft Word によって作成するための操作方法を身につけることができる。
3. Microsoft Excelの応用	6	・ 実験などで収集したデータを Microsoft Excel で適切に処理するための操作方法を身につけることができる。 ・ Excelにおけるマクロの意味を理解し、基礎的な操作方法を身につけることができる。
4. Microsoft PowerPointの応用	4	・ 研究報告や発表に必要な Microsoft PowerPoint の操作方法やスライドの作成方法を身につけることができる。
--- 後期中間試験 ---	2	
5. コンピュータによる微分積分の近似計算	4	・ 離散値を扱うコンピュータにおいて、微分値、積分値の近似値を求める手法を理解でき、Microsoft Excel を用いた演習を行うことができる。
6. コンピュータによる微分方程式	2	・ 離散値を扱うコンピュータにおいて微分方程式の特殊解の近似値を求める手法を理解でき、Microsoft Excelを用いた演習を行うことができる。
7. C言語プログラミングの応用	6	・ C言語を拡張したプログラミング言語であるC++を用いることによってWindowsのアプリケーションの作成が可能であることを理解できる。 ・ C++によるWindowsアプリケーションの作成を通して、C言語の復習および、さらなる理解を深めることができる。
--- 後期期末試験 ---		授業項目1～7について達成度を確認する
試験答案の返却・解説		各試験において間違った部分を理解出来る
〔教科書〕 適宜プリントを配布する		
〔参考書・補助教材〕		
〔成績評価の基準〕 定期試験成績(50%) + 小テスト・レポート(50%) - 授業態度(上限15%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕 3-b		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 3-2		
〔JABEEとの関連〕 (d)(1) , (d)(2)b		